

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年 2月 21日

【評価実施概要】

事業所番号	0177400231		
法人名	沼田町		
事業所名	沼田町認知症高齢者グループホームなごみ		
所在地	雨竜郡沼田町旭町3丁目5番29号 (電話) 0164-36-2525		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成22年2月18日	評価確定日	平成22年3月5日

【情報提供票より】(22年 2月 6日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 11年 2月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	14 人	常勤 6人、非常勤 8人、常勤換算	10.9人

(2) 建物概要

建物構造	木造亜鉛銅板葺 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費:22,000円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	420 円
	夕食	480 円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200 円	

(4) 利用者の概要(2月 6日現在)

利用者人数	8 名	男性	4 名	女性	4 名
要介護 1	3 名	要介護 2	1 名		
要介護 3	4 名	要介護 4	0 名		
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 80.6 歳	最低 69 歳	最高 89 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	J A 北海道厚生連沼田厚生病院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホームなごみ」は、認知症高齢者に対して適切に対応する総合的な福祉施設が急務という社会背景のもとに設立された、町営のグループホームである。隣接する町営の特別養護老人ホームの夏祭りや盆踊り、収穫祭などの行事に参加して地域の人々との交流を行うなど、経営理念に掲げる地域の人と共に楽しく暮らせる生活環境の提供を行っている。介護計画や個人記録、マニュアルなどの書類が整備され、職員体制や職員間の協力体制も充実している。利用者は、大きな吹き抜けやバルコニーから自然な光が入る明るく開放的な居間で、それぞれのペースでゆったりと落ち着いて過ごしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>理念の共有、地域交流、市町村との連携、職員の育成計画、鍵をかけないケアなど多くの取り組み項目があったが、それぞれの項目に積極的に取り組み改善されている。運営推進会議の定期的な開催、金銭管理の定期的な報告、同業者との交流、職員の共食は今後も取り組みを継続していく意向である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価表を職員全員に配布して記入してもらったものを管理者がまとめ、全体会議で再度話し合いを行い作成している。自己評価を行う事で日々のケアで注意すべき事を改めて意識したり、今後の新たな目標ができるなど、管理者や職員は自己評価が有意義であったと感じている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>今年度は5月に町役場職員、町内会長、家族、利用者などが参加して運営推進会議を開催し、利用者状況報告、年間活動報告や予定報告、地域交流などを議題として取り上げている。参加者からの要望や意見をもらう時間も設けている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>「なごみ通信」を3ヶ月毎に発行し、利用者の日々の様子や外出時の様子を写真などで家族に報告している。家族が来訪した時は、利用者の様子を報告しながら家族が意見などを言いやすいような雰囲気作りにも心掛けている。家族から寄せられた意見や要望は職員の連絡ノートに記載して全職員で把握し、内容により話し合いも行われている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内のゴミ拾いに参加している。町民芸術祭に利用者全員での作品や個々の作品を出品したり、芸能発表などを見に行くなど町内行事にも積極的に参加している。町営の隣接している特別養護老人ホームの花火大会や収穫祭、夏祭り、盆踊りなどに参加して町内の人々と交流を行っている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初の理念を昨年の1月に職員全員で見直しを行い、分かりやすい文言で「利用者が地域の人と共に安心して暮らせる生活環境を提供します」という経営理念と、「家族の様な思いやりを持って個々に合った暮らしを提供します」というケア理念を事業所独自で作成している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関、事務所、ホールに掲示し、職員のネームプレートの裏にも記載して全職員が常に携帯している。管理者は毎月の全体会議で、理念を意識して毎日目標を持って仕事をするように話している。職員はケア理念を意識して個々に合ったケアを日々行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内のゴミ拾いに参加している。町民芸術祭に利用者全員での作品や個々の作品を出品したり、芸能発表などを見に行くなど、町内行事にも積極的に参加している。町営の隣接している特別養護老人ホームの花火大会や収穫祭、夏祭り、盆踊りなどに参加して町内の人々と交流を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価表を参考にして、自己評価表を職員全員に配布して記入してもらったものを管理者がまとめ、全体会議で再度話し合いを行い作成している。自己評価を行う事で日々のケアで注意すべき事を改めて意識したり、今後の新たな目標ができるなど、管理者や職員は自己評価が有意義であったと感じている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>今年度は5月に町役場職員、町内会長、家族、利用者などが参加して運営推進会議を開催し、利用者状況報告、年間活動報告や行事予定報告、地域交流などを議題として取り上げている。参加者からの要望や意見をもらう時間も設けている。</p>		<p>今後は定期的に運営推進会議を開催していきたい意向なので、その取り組みを期待したい。また、評価や災害援助などを含む議題など、内容の更なる充実を期待したい。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>施設長は地域包括支援センターに利用者について相談に行ったり、社会福祉協議会などを訪問して頻りに情報交換を行っている。また、積極的に研修などの情報を得る事でサービスの向上に取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>「なごみ通信」を3ヶ月毎に発行し、利用者の日々の様子や外出時の様子などをたくさんの写真で家族に報告している。新しい利用者の紹介や、職員の異動や退職も報告している。金銭管理は家族が来訪した時に出勤帳を確認してもらっているが、定期的な報告には至っていない。</p>		<p>「なごみ通信」の発行頻度を増やしたり、利用者の個別の様子について定期的に家族に知らせる取り組みを期待したい。また金銭報告についても定期的に領収書の原本と出勤帳のコピーを送付するように期待したい。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族が来訪した時は、利用者の様子を報告しながら家族が意見などを言いやすいような雰囲気作り心掛けている。家族の苦情を受け付ける外部機関を分かりやすいように掲示して知らせている。家族から寄せられた意見や要望は職員の連絡ノートに記載して全職員で把握し、内容により話し合いも行われている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や退職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>幹部職員の異動が行われる事はあるが、定期的な異動は行われていない。離職する職員がいる場合は、利用者知らせて色紙にメッセージを書いてもらい全員でお別れ会をしている。利用者により離職による影響は異なるが、個々に応じてダメージが最小限になるように対応を配慮している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>前回の外部評価で職員の研修の重要性を認識し、北海道認知症高齢者グループホーム協議会や深川保健所などが主催する研修会に職員の経験に応じて参加している。外部研修に参加して全体会議で報告する事により職員の意識が変わり、日々のケアにも役立てられている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者や介護支援専門員は会議や研修会において同業者との交流が行われている。一般職員は今まで研修会に参加する機会が少なかったため、研修に参加しても積極的に交流を深めるまでには至っていない。</p>		<p>管理者間の交流を活かし、今後は一般職員レベルでの相互訪問や交流を行っていきたい意向なので、その取り組みを期待したい。</p>
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>地域包括支援センターなどからの紹介で利用開始に繋がる事が多く、緊急性などを考慮しながら家族から話を聞き、本人に数回面会して利用開始が可能かどうかを判断している。利用開始後は、ホールを仕切ったり、ソファの位置を変えたりして本人が落ち着けるような空間作りに配慮し、簡単なゲームに誘ったり、会話を多くする事で徐々に馴染めるように工夫している。</p>		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の経験を活かした事や本人のやりたい事を把握して、発泡スチロール箱を利用したミニ稲作や畑仕事、料理、味付けなどを一緒に行い、職員は作り方などを学んでいる。職員が利用者への対応で困っていると他の利用者が声かけして助けてもらう事もあり、職員は多方面で支えられていると感じている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	現在はほとんどの利用者が会話による意思疎通が可能なので、会話の中からそれぞれの利用者の意向や思いを把握するように努めている。利用者が不満そうな表情をした時は居室で個人的に話を聞いて思いを把握して、本人の希望に添えるように配慮している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用開始時に家族や社会福祉協議会の情報などを参考にして計画作成担当者と管理者が暫定の介護計画を作成している。1ヶ月程度後に担当者の意見を加えて本計画が作成されている。計画は家族に説明され、確認の署名捺印をもらっている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎に見直し作成している。ケアチェック表やモニタリング表を用いてカンファレンスで検討を行い、討議内容をサービス担当者会議の要点として記録している。利用者の状態に変化がある場合の追加の見直しも行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日常的な買い物の送迎をしたり、ドライブに出かけたりしている。昨年11月からデイサービスを開始し、3名が利用している。またショートステイについても既に資格を取得しており、準備ができ次第開始する予定である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ほとんどの利用者が協力医療機関を受診しており、事業所にて通院支援を行っている。他の病院を受診する場合は家族対応としているが、健康状態を伝えるために職員が病院に同行する事もある。受診記録はパソコン上で記録・管理している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>事業所では医療行為が発生しない範囲で可能な限りサービスを提供する方針としており、利用開始時に利用者や家族に方針を説明し納得してもらっているが、重度化した場合の対応にかかる指針や同意書などの書類までは取り交わしていない。</p>		<p>利用者および家族と事業所との方針を共有するためにも、方針について文書で説明し、書類を取り交わす方法が望ましいので、その取り組みを期待したい。</p>
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者への呼びかけやトイレ誘導などの際に利用者のプライバシーに配慮しており、気になる場合は会議で職員全体に注意している。個人の記録は事務所や鍵のかかる場所、パソコン内に安全に保管・管理している。面会受付簿は単票形式とし、プライバシーを守っている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>大まかな1日の流れはあるが、利用者は自由に過ごす事ができている。起床や食事、体操やレクリエーション参加なども利用者のペースに合わせており、事業所の都合を優先して無理強いする事はない。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや食事の後片付け、茶碗拭きなど、利用者にできる事を手伝ってもらっている。食事は音楽をかけながら職員と利用者が一緒に楽しく話し合い食事をしているが、食費負担の関係から利用者と職員は別の食事を取っている。		利用者と職員が同じ食事を取るのが望ましく、職員全員が難しければ一部の職員でも利用者と同じ食事を取り、味覚などを確認する事ができるような方法の模索を期待したい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴日を決め、ほとんどの利用者が入浴日の午前または午後に入浴しているが、希望があれば次の日などにずらして入浴する事も可能である。またシャワー浴や夜間の足浴も行っている。入浴拒否がある場合は声かけ方法や時間帯を工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除の手伝い、畑の水やり、雪かきなど個々の利用者の好きな仕事をしてもらっている。塗り絵やゲーム、音楽のDVDなども楽しんでいる。隣接する特別養護老人ホームに慰問に来る子供たちに会いに行ったり、ドライブに出かけている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏場は毎日のように散歩に行き、週2回買い物にも出かけている。万歩計をつけ散歩に励んでいる利用者もいる。年間の行事を企画し、行き先をアンケートで決めたりして、バラ園やひまわり園にドライブに行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に施錠しておらず、ユニットから玄関への戸には鈴を付けている。事務所や職員の記録スペースが出口付近にあり、外出が把握しやすくなっている。外出がある場合は一緒に付いて行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年2回、消防署の協力を得て昼夜を想定した避難訓練が実施されている。町内会に災害時の協力依頼をしたり、隣接する介護施設と災害時の連携を取っている。また、職員の救急救命訓練も定期的実施されている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>職員が献立を作成し、定期的に隣接する特別養護老人ホームの管理栄養士のチェックを受け、カロリーや栄養バランスが調整された食事が提供されている。日々の記録に食事や水分の摂取量を記録し、利用者の身体状況に合わせて調理を変えて提供している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間には利用者や職員の写真、季節の装飾などが施されている。各居室の入口に利用者の作品を飾っている。調度品や金魚で家庭的な雰囲気を作っている。2ヶ所に大きな吹き抜けがあり、自然光を取り入れた開放的な造りであり、床暖房で自然な室温を調整している。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には利用者が元々使っていたタンスや仏壇、テレビなど馴染みの品物を持ち込む事ができ、安心して過ごせる場所となっている。壁にも利用者が自由に写真や表彰状などを飾る事ができている。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。